

完了報告書

『看取り宣言！ 地域をつなぐ知・礎の和』

(2014年度在宅医療助成(後期)指定公募②)

【申請者】 横山裕子

【所属】 日本赤十字社総合福祉センター
千葉大学 看護学部(学部生)

【提出年月日】 2016年4月17日

【開催目的】

1. 多種多様な在宅での看取りのニーズに対応できるよう、一人ひとりの介護支援専門員の知識、技術の向上を目指す。
2. 研修会を通して、顔の見える関係性を構築させていくことで、スムーズな連携が可能となり、円滑なチームによる質の高い看取りケアの提供ができる。

【日 程】

- 第1回 平成27年 4月10日（金）16:00～17:45
第2回 平成27年 8月14日（金）16:30～18:30
第3回 平成27年 12月24日（金）16:30～18:50
第4回 平成28年 3月18日（金）16:00～17:20

【主 催】

日本赤十字社総合福祉センター 居宅介護支援事業所 レクロス広尾

【実施状況】

地域の医療・介護・福祉関係者等を対象に、講義形式でのセミナーを開催した。

◆第1回

演 題) 「在宅看取り推進を目指して～介護保険の改正と包括ケアの構築」
演 者) 阿部充宏氏（神奈川県介護支援専門員協会 顧問）
参加者数) 36名

◆第2回

演 題) 「地域で実践するエンドオブライフ・ケア～在宅診療の現場から～」
演 者) 佐々木淳氏（悠翔会 理事長）
参加人数) 37名

◆第3回

演 題) 「地域で実践するエンドオブライフ・ケア～訪問看護師のナラティブ～」
演 者) 藤田愛氏（北須磨訪問看護・リハビリセンター所長）
参加人数) 39名

◆第4回

演 題) 「あなたがもしくは家族が“がん”と診断されたときにすべきこと」
演 者) 西村元一氏（金沢赤十字病院 副院長）
参加人数) 46名

【アンケート結果】

第1回 地域交流セミナー

(H27年4月10日開催分)

テーマ 『在宅看取り推進を目指して～介護保険の改正と包括ケアの構築～』

講師 阿部 充宏 氏 神奈川県介護支援専門員協会 顧問

参加者数 26名 職員10名 (計36名)

1. 講演の内容に興味・関心が持てましたか (有効回答数 30 名)

| | |
|-----------|----|
| とてももてた | 24 |
| もてた | 5 |
| ふつう | 1 |
| あまりもてなかった | 0 |
| もてなかった | 0 |

2. 講義内容について(有効回答数 30 名)

| | |
|-------------|----|
| とてもわかりやすかった | 22 |
| わかりやすかった | 7 |
| ふつう | 1 |
| ややわかりにくかった | 0 |
| わかりにくかった | 0 |

3. 新しい知識や技術、あるいは理論の習得に役立ちましたか(有効回答数 30 名)

| | |
|------------|----|
| とても役立った | 23 |
| 役立った | 7 |
| ふつう | 0 |
| あまり役立たなかった | 0 |
| 役立たない | 0 |

4. 本日のセミナーに対する総合評価を示してください(有効回答数 30 名)

| | |
|-------|----|
| とてもよい | 23 |
| よい | 7 |
| ふつう | 0 |
| ややわるい | 0 |
| わるい | 0 |

【自由記入欄】

- ・忌憚ない内容でご講演いただき、ありがとうございました。大変参考になりました。
- ・今回の改正がすでに過去の改正という表現にハッとしました。未来に生き残る事業所になるために良い話を聞かせていただきました。次回もぜひ参加したいです。
- ・これから仕事を行なうにあたり、今日の講演を受けているのといないのでは、仕事に差が出るくらい重要な講演だと思いました。貴重な講演をありがとうございました。
- ・勉強させていただきました。
- ・国の考え方の裏話を教えて頂き、国がケアマネに対して、今後どのように考えているのか良く判りました。判り易い説明でありがとうございました。なかなか本音を教えて頂く機会がなく為になりました。
- ・大変勉強になりました。
- ・とても楽しく聞かせて頂きました。勿論、今後の参考にさせていただきます。ありがとうございました。
- ・今までにない研修内容でとても斬新でした。型にはまらないケアマネジャーを目指していきたいと思います。
- ・今後のケアプランの作成に非常に参考になりました。はっきりとした目標を立てるためにアセスメントの大切さを確認しました。評価をもとにサ担を開催する。実行していきたいです。
- ・とてもためになるセミナーでした。ありがとうございます。
- ・アセスメントの重要性、アプローチの仕方の意義を改めて考えていかないといけないと実感いたしました。本日は大変有意義な研修をありがとうございました。
- ・資料すべてについてご教授いただきたかった。時間等の問題ですね。
- ・いつもできないことばかりをアセスメントしているように思い、できることに対するアセスメントをしていこうと思いました。とても大切な視点でのお話ありがとうございました。
- ・「利用者が人生を選択できるように」ということは、その方の尊厳を守ることだと思いました。やはり、人の尊厳に対しての意識をしっかり持ちたいと思いました。
- ・地域ケア会議に向けてのプレゼン能力を高めませんかとのテーマがあったがそのことにはあまり触れられていなかったのが残念だった。

第2回 地域交流セミナー

(H27年8月14日開催分)

テーマ 『地域で実践するエンドオブライフ・ケア～在宅診療の現場から～』

講師 佐々木 淳 氏 医療法人社団 悠翔会 理事長

参加者数 32名 職員5名 (計37名)

1. 講演の内容に興味・関心が持てましたか (有効回答数 32 名)

| | |
|-----------|----|
| とてももてた | 29 |
| もてた | 2 |
| ふつう | 1 |
| あまりもてなかった | 0 |
| もてなかった | 0 |

2. 講義内容について(有効回答数 32 名)

| | |
|-------------|----|
| とてもわかりやすかった | 29 |
| わかりやすかった | 3 |
| ふつう | 0 |
| ややわかりにくかった | 0 |
| わかりにくかった | 0 |

3. 新しい知識や技術、あるいは理論の習得に役立ちましたか(有効回答数 32 名)

| | |
|------------|----|
| とても役立った | 25 |
| 役立った | 6 |
| ふつう | 1 |
| あまり役立たなかった | 0 |
| 役立たない | 0 |

4. 本日のセミナーに対する総合評価を示してください(有効回答数 32 名)

| | |
|-------|----|
| とてもよい | 24 |
| よい | 8 |
| ふつう | 0 |
| ややわるい | 0 |
| わるい | 0 |

第3回 地域交流セミナー

(H27年12月25日開催分)

テーマ 『地域で実践するエンドオブライフ・ケア～訪問看護師のナラティブ～』

講師 藤田 愛 氏 北須磨訪問看護・リハビリセンター所長 (慢性疾患看護専門看護師)

参加者数 33名 職員 6名 (計39名)

1. 講演の内容に興味・関心が持てましたか (有効回答数 26 名)

| | |
|-----------|----|
| とてももてた | 24 |
| もてた | 2 |
| ふつう | 0 |
| あまりもてなかった | 0 |
| もてなかった | 0 |

2. 講義内容について (有効回答数 25 名)

| | |
|-------------|----|
| とてもわかりやすかった | 22 |
| わかりやすかった | 3 |
| ふつう | 0 |
| ややわかりにくかった | 0 |
| わかりにくかった | 0 |

3. 新しい知識や技術、あるいは理論の習得に役立ちましたか (有効回答数 25 名)

| | |
|------------|----|
| とても役立った | 21 |
| 役立った | 2 |
| ふつう | 2 |
| あまり役立たなかった | 0 |
| 役立たない | 0 |

4. 本日のセミナーに対する総合評価を示してください (有効回答数 26 名)

| | |
|-------|----|
| とてもよい | 20 |
| よい | 6 |
| ふつう | 0 |
| ややわるい | 0 |
| わるい | 0 |

【自由記入欄】

・よい事例のお話しかったと思います。

① 退院後3年も奥様と2人で在宅を継続できることは、医療・介護の連携の結果です。

② 受診拒否の理由もよく理解でき、正解はないと思います。その方の心に寄り添えるのは訪看？ケアマネ？

- ・ 具体的な事例を通して、各状況を疑似体験できて判断に困るケースと一緒に考えることができ
て勉強になりました。
- ・ 本人の意思を尊重すること、家族との関係性も含め、調整が必要。メリットもデメリットもしっかり伝えること（それをはっきりいうことも必要）など、いろいろためになりました。押しダメなら引いてみてよいですね。
- ・ 現場での総合的判断、ご本人の尊厳の尊重など…スピリチュアルケアの実際の現物のお話しと難しさなど勉強になりました。
- ・ 遠いところからのご講演ありがとうございました。今後の支援に生かしていけたらと思います。
- ・ 今日の事例は緊急時における対応のようであったが、命に限りがあるので、前もって本人、家族
の考え方、価値観をまとめておくのも専門家（看護師・ケアマネジャー）の仕事だと思っている。
- ・ 当施設でも在宅支援等がまだ不十分なところがあると実感しました。
- ・ とても今後のことを考え必要なことと思い参加させていただきました。在宅での看取りはこれからの地域での大きな課題と感じています。家族を支えるべく支援体制の構築に頭を抱えています。
- ・ 2部からの参加で申し訳ありません。
- ・ 終末期をどう考えたらよいか、本人・家族の検討
- ・ 藤田さんの事例紹介については大変勉強になりました。第2部については、何かテーマを決めて進めていただけると時間を有効に使えたのではないのでしょうか。
- ・ 多様な意見が聞けて良かったです。関西弁が最高でした。
- ・ 地域の関係者が集まる非常に有意義な会ですね。ぜひ継続してほしいです。

第4回 地域交流セミナー

(H28年3月18日開催分)

テーマ 『あなたもしくは家族が“がん”と診断されたときにすべきこと～』

講師：西村 元一 氏 金沢赤十字病院 副院長

参加者数 33名 職員13名 (計46名)

1. 講演の内容に興味・関心が持てましたか (有効回答数 32 名)

| | |
|-----------|----|
| とてももてた | 22 |
| もてた | 9 |
| ふつう | 1 |
| あまりもてなかった | 0 |
| もてなかった | 0 |

2. 講義内容について(有効回答数 32 名)

| | |
|-------------|----|
| とてもわかりやすかった | 22 |
| わかりやすかった | 8 |
| ふつう | 2 |
| ややわかりにくかった | 0 |
| わかりにくかった | 0 |

3. 新しい知識や技術、あるいは理論の習得に役立ちましたか(有効回答数 32 名)

| | |
|------------|----|
| とても役立った | 18 |
| 役立った | 10 |
| ふつう | 4 |
| あまり役立たなかった | 0 |
| 役立たない | 0 |

4. 本日のセミナーに対する総合評価を示してください(有効回答数 32 名)

| | |
|-------|----|
| とてもよい | 18 |
| よい | 14 |
| ふつう | 0 |
| ややわるい | 0 |
| わるい | 0 |

【感想】

我が国は、急速な高齢化に伴い、他死社会を迎えています。その中で、在宅看取りが推進されていますが、平成 26 年度の高齢社会白書によると、最期を迎えたい場所として、半数以上の方が「自宅」を希望していることが伺えます。今後、病院や施設での看取りではなく、住み慣れた自宅で最期を迎えるにあたり、様々なサービスの利用が考えられる中で介護支援専門員も重要な役割を果たすべき専門職であると考えられます。しかし、現在、介護支援専門員に従事している約 7 割は福祉系介護支援専門員であり、医療に対して苦手意識を持っている者も少なくありません。そこで、多種多様な在宅での看取りのニーズに地域の介護支援専門員が積極的に対応できるよう、勇美記念財団のお力を借りて、本セミナーを開催するに至りました。

第 1 回目は、原点に戻り、介護支援専門員として、制度を正しく理解すると同時にアセスメント能力向上させ、関わる対象者その人にとって最善の望ましいエンドオブライフ・ケアの実現を支援できるよう今後求められるケアマネジメントについてセミナーを開催し、参加者からは、「利用者が人生を選択できるように」ということは、その方の尊厳を守ることだと思いました。やはり、人の尊厳に対しての意識をしっかりと持ちたいと思いました」「これから仕事を行なうにあたり、今日の講演を受けているのといないのでは、仕事に差が出るくらい重要な講演だと思いました」等、貴重な意見が寄せられました。

第 2 回は、東京 23 区および埼玉・千葉・神奈川で訪問診療専門のクリニックグループを運営し、訪問診療を行っている佐々木医師より、在宅医療というのは基本的には先端医療というよりは、総合診療であって、patient-oriented（患者学）であることや、『在宅での終末期の看取り』では、自宅で家族が死ぬという体験をしている人が少ないので、家族の死を受け入れる準備をいかにさせていくか、例えば 30 代で末期ガンで亡くなられた遺族の方々にどうやってその状況を受け入れてもらうかなど、そのための体制をどうやって作って行くのが重要である」等のお話しに加え、フレイルティとそれに関連するサルコペニアの予防、栄養との関連について事例をあげご説明いただきました。

第 3 回は、慢性疾患看護専門看護師であり、機能強化型の訪問看護ステーション所長の藤田愛氏より、個人の尊厳と意思を尊重した在宅での終末期医療とはどのようなものであるか、また患者が自らの最期についての意思を決めていくプロセスにおいて、どのような支援を訪問看護師が行っているかを、いくつかの実例をあげながら講義を中心に簡単なグループ討議を行いました。参加者からは、「現場での総合的判断、ご本人の尊厳の尊重の難しさとスピリチュアルケアの実際を知ることができた」、また「今日の事例は緊急時における対応のようであったが、命に限りがあるので、前もって本人、家族の考え方、価値観をまとめておくのも専門家(看護師・ケアマネジャー)の仕事だと思っている。」等、自分の専門職としての役割を再認識できたという意見も聞かれました。

第 4 回目は、現在、進行胃がん(ステージⅣ)の入院治療中である西村元一氏より、大腸がんを中心に 30 年余り消化器がん治療に関わってきた外科医が進行胃がん患者になって気づいたこと

を中心にお話しいただきました。その中で「患者はわかったフリをする。悲しんでいないフリ、怖がっていないフリ、医療者の前で意思決定をすぐにできたフリなどを医療者に見せる。医療者はいくら数えきれないほどの患者と接して患者のことを分かったつもりになっていても、患者の立場になって初めて分かることがある。だからこそ、フリをしているかもしれないと常に思いを馳せながら謙虚にコミュニケーションを取らなくてはならない」という件に襟を正されたと同時に自分の過去の経験と今回の体験を比較することにより得られたことを中心に、今後の医療関係者とがん患者・家族とのあり方を追求していく先生のお姿に参加者は大きな感銘を受けたと思います。

これらのことから、4回のセミナーは、在宅看取りに対する地域の介護支援専門員等の知識・技術の向上への礎になったのではないかと感じています。

最後になりますが、このようなセミナーを開催するにあたりお力添えをいただきました「公益法人在宅医療助成勇美記念財団様」には深く感謝申し上げます。

【備考：次回に向けての工夫】

参加者がセミナーでの学びをフィードバックできる場の提供も含めた参加者それぞれのプログラム内容とすべきだったと思います。（例：講義＋グループワーク＋発表など）

看取り宣言！

地域をつなぐ知・礎の和

在宅看取り推進を目指して～介護保険の改正と包括ケアの構築～

超高齢化が進むわが国では、「看取りの場」を病院から在宅へ転換する政策を打ち出しています。今後、包括ケアの担い手として、介護保険制度の改正点を正しく理解し、その役割について一緒に考えてみませんか。

参加費

無料



講師 阿部充宏 氏

神奈川県介護支援専門員協会 顧問

日 時：平成27年4月10日（金）16：00～17：45

場 所：日本赤十字社総合福祉センター 8階大会議室
（東京都渋谷区広尾4-1-23）

<アクセス> 都営バス：渋谷駅東口から「学03」系統 日赤医療センター行き終点（約8分）

恵比寿駅西口から「学06」系統 日赤医療センター行き終点（約7分）

東京メトロ日比谷線：「広尾駅」下車3番出口から徒歩約15分

※お車でのご来場はご遠慮下さい。

■お申し込みは必要事項を記入の上、そのままFAXして下さい。（申込み順40名になりましたら終了します）

| | |
|------|--|
| 事業所名 | |
| 連絡先 | |
| 参加者 | |
| 氏名 | |

FAX番号

03-6861-4813

【問い合わせ先】

日本赤十字社総合福祉センター
居宅介護支援事業所 レクロス広尾
TEL 03-6861-4803
担 当：市橋・横山

■主催 日本赤十字社総合福祉センター

■この研修会は、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受けています。

看取り宣言！

地域をつなぐ知・礎の和

地域で実践するエンドオブライフ・ケア ～在宅診療の現場から～

超高齢化が進むわが国では、「看取りの場」を病院から在宅へ転換する政策を打ち出しています。医療・福祉という枠を越えて地域全体の生活を守る役割を果たすためになにができるか、一緒に考えましょう。

参加費

無料

講師 佐々木 淳 氏

医療法人社団 悠翔会 理事長

日 時：平成27年8月14日（金）16：30～18：30

場 所：日本赤十字社総合福祉センター 8階大会議室
（東京都渋谷区広尾4-1-23）

<アクセス> 都営バス：渋谷駅東口から「学03」系統 日赤医療センター行き終点（約8分）

恵比寿駅西口から「学06」系統 日赤医療センター行き終点（約7分）

地 下 鉄：東京メトロ日比谷線「広尾駅」下車3番出口から徒歩約15分

※お車でのご来場はご遠慮下さい。

■お申し込みは必要事項を記入の上、そのままFAXして下さい。（申込み順40名になりましたら終了します）

| | |
|------|--|
| 事業所名 | |
| 連絡先 | |
| 参加者 | |
| 氏名 | |

FAX番号

03-6861-4813

【問い合わせ先】

日本赤十字社総合福祉センター
居宅介護支援事業所 レクロス広尾

TEL 03-6861-4803

担当：横山

■主催 日本赤十字社総合福祉センター

■この研修会は、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受けています。

看取り宣言！

地域をつなぐ知・礎の和

地域で実践するエンドオブライフ・ケア～訪問看護師のナラティブ～

超高齢化が進むわが国では、「看取りの場」を病院から在宅へ転換する政策を打ち出しています。今後、包括ケアの担い手として、「その人らしく生きる」を支える支援とはどのようなものであり、私たちの役割はなにかを一緒に考えてみませんか。

参加費
無料

参加対象
医療・福祉
関係者

講師 **藤田 愛氏**

北須磨訪問看護・リハビリセンター 所長
(慢性疾患看護専門看護師)

日時：平成27年12月25日(金) ①16:30～18:00 講演
②18:10～18:50 ディスカッション

場所：日本赤十字社総合福祉センター 8階大会議室
(東京都渋谷区広尾4-1-23)

<アクセス> 都営バス：渋谷駅東口から「学03」系統 日赤医療センター行き終点(約8分)
恵比寿駅西口から「学06」系統 日赤医療センター行き終点(約7分)
東京メトロ日比谷線：「広尾駅」下車3番出口から徒歩約15分
※お車でのご来場はご遠慮下さい。

■お申し込みは必要事項を記入の上、そのままFAXして下さい。(申込み順40名になりましたら終了します)

| | |
|-----------|--|
| 事業所名 | |
| 連絡先 | |
| 参加者 氏名 | |

FAX番号

03-6861-4813

【問い合わせ先】

日本赤十字社総合福祉センター
居宅介護支援事業所 レクロス広尾
TEL 03-6861-4803
担当：市橋・横山

■主催 日本赤十字社総合福祉センター

■この研修会は、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受けています。

看取り宣言！

地域をつなぐ知・礎の和

「専門医が消化器がんになったとき」(仮)

30年あまり消化器がん治療に関わってきた外科医が進行性胃がんになって見えたこと、感じたことを皆さんにお伝えします。一緒に今後の医療・福祉関係者、がん患者・家族のあり方について考えてみませんか。

参加費
無料

参加対象
医療・福祉
関係者

講師 西村 元一 氏
金沢赤十字病院副院長 第一外科部長

日時：平成28年3月18日(金) 16:00～17:20

場所：日本赤十字社総合福祉センター 8階大会議室
(東京都渋谷区広尾4-1-23)

<アクセス> 都営バス：渋谷駅東口から「学03」系統 日赤医療センター行き終点(約8分)
恵比寿駅西口から「学06」系統 日赤医療センター行き終点(約7分)
地下鉄：東京メトロ日比谷線「広尾駅」下車3番出口から徒歩約15分
※お車でのご来場はご遠慮下さい。

■お申し込みは必要事項を記入の上、そのままFAXして下さい。(申込み順40名になりましたら終了します)

| | |
|-----------|--|
| 事業所名 | |
| 連絡先 | |
| 参加者 氏名 | |

FAX番号
03-6861-4813

【問い合わせ先】

日本赤十字社総合福祉センター
居宅介護支援事業所 レクロス広尾
TEL 03-6861-4803
担当：横山

■主催 日本赤十字社総合福祉センター

■この研修会は、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受けています。